

例会・集会スケジュール

- 11月21日(日) 強歩 丹生山→大仙池
集合 箕谷 9:00 当番:野上③
- 11月23日(火) 六甲山全山縦走 希望者のみ
集合 国鉄塩屋駅 5:00
- 11月28日(日) 歩荷 菊水山→摩耶山
集合 平野 8:30 当番:幸内
- 12月 5日(日) 沢歩き 西山谷
集合阪急御影 8:30 当番:古賀
- 12月12日(日) 芦屋ロックガーデンI.T.T.
集合阪急芦屋川 8:30 当番:星野
- 12月19日(日) 歩荷 山寺尾根→桜谷→徳川道
集合阪急六甲 8:30 当番:神田
- 12月26日(日) 準備会 於研修所 午前10時より

委員会 12月 1日(水)

集会 11月17日(水)

12月 8日(水)

月

報

神戸山岳会

No. 81

51.11.17

発行 神戸山岳会

神戸市生田区中山手通1丁

目105の9 前田方

編集 上原・長島・田中

植

目 次

冬山合宿計画概要	1
51年度夏山報告	1
夏山合宿(記録)神 田 章 孝	2
夏山合宿・剣岳幸 内 義 孝	5
個 人 山 行		
5月の八ヶ岳植 原 清 明	5
● 尾 瀬田 中 正 裕	8
妙 高 連 峰田 中 正 裕	9
白 山幸 内 義 孝	10
みちのくの山といで湯の旅星 野 辰 也	10
秋の例会小遠征		
御 岳 山神 田 章 孝	12
秋の御岳山(3063m)星 野 辰 也	13

冬季鹿島槍ヶ岳合宿計画

野 上 芳 宏

期 間 51年12月30日～52年1月6日

1. 場所及び登るコース

鹿島槍ヶ岳 天狗尾根・天狗の鼻にB・Cを設営。ここより鹿島槍、北峰南峰アタックする。

目 的 鹿島槍ヶ岳 概念把握と冬山技術の向上

日 程 51.12/30 夜大阪出発

31 大町着鹿島部落大冷沢出合 天狗尾根1900m暮営

52. 1/ 1 1900m-天狗の鼻以てB・C設営

2 B・Cより頂上アタック-B・C

3 B・Cより-大冷沢-鹿島部落-帰神

4 予 日

5 予 日

6 予 日

参加予定メンバー

CL 梅原 SL 宮本、内藤、星加、野上哲男、古賀、星野、幸内、田中、神田

OB 野上芳、野上博、岸本

又、冬山合宿、参加したい人は至急野上芳まで連絡下さい。大歓迎します。但し、今すぐトレーニングに頑張ってください。冬山合宿に行く人は11月の例会、12月の例会、参加する事。都合で出席出来ない人は誰かに連絡する事(理由を云って)

◎第1回研究会 鹿島槍は11月6日 PM7時

◎第2回研究会 11月20日 PM7時、神鉄箕谷集合

以上、52年の元旦は鹿島槍の天狗の鼻で迎えてみませんか。素晴らしい初日をと願っています。



夏山合宿報告

昭和51年度の夏山合宿は剣岳にて、下記の通りおこなわれた。

1. 先発隊

- (1) 参加者 宮本 (CL) 古賀 (GL) 神田 相馬
(2) コース等

8月9日(月) 大阪発
8月10日(火) 富山～馬場島～砂防堤～馬場島山荘
8月11日(水) 馬場島山荘～前木公尾平～避難小屋～伝蔵小屋
8月12日(木) 伝蔵小屋～剣本峰～三ノ窓 (BASE)
8月13日(金) 三ノ窓～剣尾根上半～三ノ窓
8月14日(土) 三ノ窓～剣沢小屋
8月15日(日) 剣沢小屋～室堂

2. 後発隊

- (1) 参加者 幸内、植原
(2) コース等
8月12日(木) 大阪発
8月13日(金) 富山～室堂～長次郎谷～三ノ窓
8月14、15日 先発隊に同じ

夏山合宿 (記録)

記・神田

8/9 20:10 北国にて大阪発

8/10 くもりのち雨

4:15 富山 6:15

5:45 馬場島 砂防堤 10:00 砂防堤

10:45 馬場島山荘 (実働4:30)

タクシーで馬場島山荘をこしたところにある砂防堤まで入る。白荻川は数日來の雨で増水しており、クツとニッカをぬいて2回の渡渉を行なったが、雨もふり出し、危険な状態であったため引き返しもう一度渡渉を行ない、そして砂防堤の上からボルトを打って、けん垂を行なって降りる。

その足で馬場島山荘へ(水は死ぬほど冷たかった)。大雨がふりつづいていたが夕方やむ。

小屋には、三ノ窓からおりてきた山岳会の人たちがいたが、ここ1週間ほど雨つづきで、1本も登らず降りてきたとのこと。山小屋にて、たらふくメシを食いゆっくりとねる。

8/11 晴

4:35 起床	7:00	9:35
	7:35	10:10
5:07	7:40	10:35
5:40 前松尾平	8:08	11:00 避難小屋
5:45	8:20	11:30
6:15 後松尾平をすぎた急登	8:45 1600mあたり	12:00 2200mを すぎたあたり
6:20	8:50	12:30
6:35	9:25 1900m手前	12:50 伝蔵小屋

(実働5:11)

風は冷たいが天気はしだいに回復してきた。

松尾平あたりの登りは、ゆるやかだが、そこをすぎると登りばかりでまいってしまう。避難小屋にて昼食をとる。そこより1時間ほどで伝蔵小屋につく。

時間は早い、これより先剣岳までサイト場もないし、全員少々疲労気味なこともあって今日はここにてサイト。夜、月あかりにてらされた山々が浮び上がっていた。

8/12 晴

4:00 起床	
5:10	8:10
5:45	8:45 剣岳ピーク
5:50	9:20
6:20 2400m付近	10:12 三ノ窓手前
7:10	10:20
7:35 2800m付近	11:15 三ノ窓
7:40	
8:05 2890m手前	(実働4:17)

晴れて展望はよいが、あいかわらずの急登で参る。

剣岳付近になると岩場、クサリ場がつづいて剣岳へ、360°のパノラマである。

剣岳で十分に休んでから出発、岩場の連続でそれに加えて非常にもろい岩質で注意をせねば落石

を、ひん発してしまう。落石には非常に神経を使う。

ガレガレの池ノ谷ガリーを下り、三ノ窓につく。雨で雪ケイは、ズタズタ。

全員で昼寝してから、宮本、相馬の2名は雪上訓練を行ない、古賀、神田の2名はチンジャンDガリーを登る。

3:30~4:30 3ピッチ 人があまり登っていないようで、ハーケンまいておらず岩もろい。2回のけん垂と、クライムダウンで下る。

8/13 くもり時々ガスのち大雨

5:20 起床 8:00

7:50 アルンゼ出合い 13:00 三ノ窓

左俣ガリーを下りアルンゼ出合いにつく。雪ケイはズタズタ。小雨がふってきてガス視界30m。

アルンゼはチョックストーンが2つほど出てくる。

全体的に岩がグスグスで落石多し、R2のコルより余り尾根上半をつめ出すが、雨のためフリクションがきかず非常にこわい目をする。

3回ほどアンザイレンする。10時ごろより、ガスから雨に変わり出す。風がふきあげてきて非常にさむい。池ノ谷コルにつくころには、もう雨が本ぶりになってくる。

8/14 雨ふりつつく

12:00 三ノ窓 14:15

14:15 16:30 剣沢小屋

沈殿しても雨がつつくとのリーダー判断で予定より早く下山することとする。

池ノ谷ガリーをのほり、コルより長次郎の雪ケイを下る。雨ふりつつき雪ケイはズタズタ、アイゼンをはいてはいるが長い下りに足が笑う。長次郎と剣沢の雪ケイの出合いにて昼めしを食う。寒さで体ガタガタ。

剣沢の雪ケイをのほり、剣沢山荘につく。小屋の主人にきくと、室堂の橋は大雨のため流されてしまったとのこと。きようは小屋どまり。しかし場所がないので売店で寝る。畳がひいてあるレストープもあり快適。スワロークラブの人たちと話をし、メシを食う。夜どおし強風雨。小屋ゆれる。

8/15 雨のちくもりのち雨

11:00 剣沢小屋 12:50

11:50 剣御前小屋 14:00 室堂

12:30 雷島沢

出発時、強風雨。しかし剣御前小屋あたりよりしだいに風雨弱くなり、雷島沢につくころには、もう青空見え出す。ツクリガ池のあたりで一時雨やむが、室堂につくころには再び雨ふり出す。

夏山合宿・剣岳

幸内義孝

富山に着くと、いまにも泣きそう。美女平に着くと涙ボロボロ、室戸に着くと大泣きさ、ある雨かと、三窓に急ぐ。剣御前小屋でカップを出しちよっとものを食べる。何故か歌う。雨々降れ降れ母さんと心の中で、雨も又楽しからずやと心に言う。剣小屋でラーメン食べホットする。長次郎の登り、雨の中、ガスの中を下を向きただひたすら登る。休むたびに上を見、落石を心配する。熊の岩迄来た。もうちよっとと思いU氏に言う。コルにつき、すわってU氏を待つ。ザックに座るとコックリーとまぶたがおじぎする。パッと思い立って待つ。アイゼンをはずし池ノ谷ガリーを下る。池ノ谷から吹き上げる風が非常に強い。テントに着いた時ホットする。めしたべてねると何もかもベチャベチャ。朝、天気図を見ると見込みなし、昼頃下山、又長次郎下る。雨の中、帰る。剣小屋で一泊、コフェルの一つをなくしたが、Sクラブの人達となごやかに話して楽しかった。次の日又雨。ぐっしょりぬれたまま室戸へ。剣御前小屋で立山が見え、何か山へ来たという感じを受けた。雨々降れ降れ母さんと、じゃの目でお迎えうれしいな ビチビチチャブチャブランラン。

個人山行

5月の八ヶ岳

植原清明

久方ぶりのアルプス行(霞沢岳)が土砂崩れ、その上に松本電鉄バスのストのため、断念せざるを得なくなった。切角4日間連続して休暇がとれたというのに、このまま山へ行かずに過ごすのは勿体無い。そこで、岩あり、雪あり、そして比較的手頃楽しめる山を捜したところ、八ヶ岳が最適であるとおもわれ、そこに決める。

5月2日

姫路駅(発10:35 ひかり号にて) - 名古屋駅(発13:05 木曾2号にて) - 塩尻駅(発16:12 アルプス2号にて) - 茅野駅(着17:19) - 美野戸口

山へ行く時の中央線はほとんどが夜間であったが、久しぶりで昼間の中央線で行くことになった。途中、雪をいただいた御岳山が雄大な姿をみせ、登高欲をいやがうえにもそそられる。塩尻で中央東線に乗り換え茅野駅へ。

茅野駅よりバスで美濃戸口へ行く予定であったが、既に本日の最終バスは出た後であった。しかたなく茅野駅周辺をブラブラしたり、食事をしたりしてからタクシーで美濃戸口まで行くことにする。

タクシーは祭りでにぎわう茅野の街を過ぎ、八ヶ岳山麓の広大な据野をひた走り、八ヶ岳農場を過ぎて美濃戸口へ。八ヶ岳農場はカラ松林の中にあり、牧歌的なところである。タクシーの窓から入ってくる冷気と、牧舎から漏れる明りがマッチして、素朴な風情をかもし出し、ノスタルジアを感じさせられる。

美濃戸口には大きなレストランがあり、店の親父が外に出てきて客の番をしている。当初、そのレストランの軒下にツェルトを張る予定であったが、気の弱い私には、とてもそうすることができず、結局カラ松林のなかに張ることにする。しかし、全くついていないものだ。ツェルトを張り終ってシュラフにもぐると雨が降り出してきた。全く困ったことだ。入山前に雨でびしょ濡れになるなんて。しかたなく、駐車場のトイレの軒下とか、様々な所を物色したが結局役立たなかった。半ば諦めていると、少し下の方に何か建物らしき物が暗闇のなかでかすかにみえる。樹木ではないかとおもいながら近づいてみると、物置き小屋であった。それに、トタン張りの最適な軒までついていて、そこで落ち着いて寝ることができた。

5月3日

美濃戸口(発10:05)→美濃戸(10:05)→行者小屋(13:30)

夜中、様々な夢にうながされて、度々眼があいたが、一面のガスに被れ、雨が降っている。その度にシュラフにもぐり込み、9時まで寝ていた。それでも雨は止んだので本日中に行者小屋へと簡単な食事を済まし、10時5分、美濃戸口を出発。

車が通れる大きな道を一路美濃戸へ。途中、近道などがあり、それを利用して10時45分美濃戸着。ここまではジープが入ることができる。

美濃戸で休憩後、再び行者小屋を目指してとばす。この路は柳川の右岸につけられた原生林のなかの路である。ガスは時々切れるが、行者小屋近くの河原に出るあたりから小雨となってきた。行者小屋までは、全くといってよいほど雪がなかったが、小屋周辺より上部は一面雪の世界である。行者小屋着13時30分。早速、小屋のなかに入る。小屋は雨で濡れた登山者でごった返していた。その時、背後から私の名前を呼ぶので振り返ってみると、同じ職場のSさんだった。全く奇遇だ。まさか、こんな所で彼に会おうとは夢にもおもわなかった。彼は雨のため、この小屋に連泊しているということ。お茶などをかわし、話がはずむ。彼は小屋に泊っていくようすすめたが、大変混んでいるのでツェルトに寝ることにする。

16時すぎ、小屋の近所にツェルトを張る。雨が降るなかでのツェルトは大変つらいが、それで

も、小屋の混雑と比べればまだ良い。下から水が透みこみ、寒くてなかなか眠れなかったが、いつの間にか眠り込んでいた。

5月4日

幕营地(6:00) - 中岳・赤岳の科尔(7:10) - 中岳(7:20) - 中岳・阿弥陀岳の科尔(7:45) - 阿弥陀岳(8:10) - 中岳・阿弥陀岳の科尔(8:20) - 中岳(8:30) - 中岳・赤岳の科尔(8:40) - 赤岳(9:40) - 赤岳石室(10:10) - 横岳(11:35) - 横岳石室(13:15) - 硫黄岳(13:45) - 赤岳鉱泉(15:10) - 行者小屋(着16:20 発17:05) - 美濃戸(着18:10 発18:30) - 美濃戸口(19:00)

朝4時に眼があいた。ツェルトからとび出して山を見上げると、空は一面雲に被われているが、山々は頂をみせており、阿弥陀岳の辺りだけ雲に被われている。雨で濡れた衣類をコンロで乾かし朝食を済まして、小屋へSさんを迎えにいったが、彼は阿弥陀岳へ登らずに、文三即道より直接赤岳へ登るといふ。しかたなく、彼と別れ、私は阿弥陀岳を目指して阿弥陀岳・中岳の科尔へ向った。

ほんの10分程進んだころ、雪は深くなり、スパツをつける。そこより、一条トレースがルンゼのなかについているので、それが正規のルートだともい前進するが、トレースは次第に消えていき、1人の踏跡になった。その上チリ雪崩がサラサラと落ちてくる。これは明らかにルートの間違えたのに違いない。しかし、このままでも登れそうなので行けるところまで行くことにする。斜面は次第にきつくなり、キックステップをしなければ登れなくなってきた。しかし、アイゼンを用いる程のこともない。最後に雪を被った逢松の間をこげば、中岳と赤岳の科尔に出た。

そこより5分程で中岳の頂へ。風はきついが、雲は所々きれ青空がのぞいている。重厚な雲海のなかから権現岳、阿弥陀岳が頂をあらわしている。特に、阿弥陀岳は四方が切れ落ちた大きなピークで、その迫力はすごいものがある。中岳から眺めていると登れないのではないだろうかとおもわれる。

まあ、とりあえず取り付いてみよう、中岳を後に科尔へ。科尔から阿弥陀岳への登りになる。いざ取り付いてみるとそれほどたいしたことはなく、アイゼンも付けずに8時30分頂上に達することができた。

阿弥陀岳を後に、赤岳を目指して、今来た稜線を引き返す。風は強く、一面ガスに被われてきた。赤岳ののぼりは、簡単な岩登りが必要だ。岩には雪が付着し、アルプス的な感じがする。途中、食事など大休止したが、9時40分には山頂に達せた。山頂では、ガスのため、視界がきかず、その上、沢山の人がいる。そのため、山頂を素通りして、次の目的地横岳へ向かう。

赤岳の下りは、氷の上に新雪がついており、スリップしそうな斜面だ。ピッケルでバランスをとり、一步一步確実に下る。

10時10分、赤岳石室に着く。石室のなかに入ってみると数人の登山者が居た。別にこれといってほしいものがなかったので、すぐそこを出て岩尾根をとばす。途中で簡単な食事をしていると同職場のSさんがやってきた。彼はあべ静江に似たすごい美人のメッチェンを連れているではないか。妻帯者の彼に女性がつき、独身者の私につかないのはどういうことか。世の中の女性は男を見る眼がないといわざるを得ない。まあ、その話はさておき、私は彼らに同行することにする。

11時35分横岳山頂に着く。空はいつの間にか晴れあがり、今まで巡ってきた山々が眺められる。特に、赤岳の偉容が眼をひく。脚下には大同心がみえるが、そんなに登攀欲をそそられるような岩ではない。横岳山頂でSさんらが持ってきていたにぎり飯を食べ、1時間近く休んでいた。

横岳を後に、最終目標である硫黄岳を目指す。途中グリセードなどして遊んだりしながら、13時45分硫黄岳山頂に着く。空はまたいつの間にかガスに被われ、雨が降りだした。長居は無用だ。赤岳鉱泉へ向けて下山。鉱泉着15時10分。鉱泉より雨のなかを行者小屋へ。Sさん達は今夜も行者小屋に泊まるとのことであるが、私は美濃戸口へ下ることにする。ツェルトをたたみ、夕暮の誰もいない小路をとぶように急ぐ。美濃戸口に着いた頃には、とっぷり陽は暮れていた。

尾 瀬

田 中 正 裕

member 岸本、野上②、星野、田中

5月のゴールデンWeekである2日～5日を尾瀬で過ごすことになり、上野から上越線の沼田駅で降る。驚いたことに我々が乗ってきた列車の乗客はすべてとっていい程、この沼田駅で降りた。沼田の駅前には真夜中というのに何百人という人々がアッと言う間に幾筋もの行列ができ、尾瀬の人気を今更ながら思い知らされた。地元である星野さんに言わせると、「?年前の夏の最盛期の尾瀬よりも凄い」という、尾瀬の人気は年々エスカレートしているようである。それにしても、こんなに多くの方が尾瀬に入るのかと思うと、先の山行が何か興味が薄らいってしまうようで心配であった。富士見下から入ることになり、少し明るくなった頃に山荘を出る。富士見峠あたりになると、そうとう雪が残っておりアヤマ平を通り横田代あたりから、「岸本さん、野上さんには申し分けありません」が、私と星野さんはスキーをつけ鳴待峠までの約1.5Kmのなだらかなスロープをたのしく滑降し、その日のうちに足を伸ばして悪沢岳から至仏山へと進めた。至仏山への登行の途中では、春日和の陽気の中での小休止は、いつのまにか4人を夢の中へと誘われてしまった。目が覚めた時、一瞬どこにいるのか判らなかつた位である。その間約30分間の出来事であった。至仏山からのスキー滑降は、我々が一番たのしみにしてきたものである。横幅1～2Kmはあると思われる大

斜面での大斜滑降である。まさに斜滑降が飽ると言う感じである。あまり長いので足首が痛くなるのであります。且I、これは大げさでもなんでもありません。至仏の斜面の大きさが判っていただけだと思います。今日は山ノ鼻田代にて一泊する。

翌日……

「五月の尾瀬はまったく花等はなく、あるのはただ雪原だけである」…こう言ってしまうとカッコよく聞こえるが…さすが湿地帯の雪原だけあって、ピチャピチャである。ところどころ木道が露出しており、その周囲はとくに雪融けがすすんでいる。しかしこの雪原を歩いていると、雪の下で雪融を待つ膨大な数の花たちの芽が生きているのかと思うと、つい花で着飾った尾瀬をおもい浮かべてしまう。足が疵れたところ下田代十字路につく。そこから沼尻平までは少し登りがあり尾瀬沼のほとりの小屋に入る。沼は大きく半分以上雪で覆われている。天気は悪くなりガスで火うちも見えなくなり、有名な長蔵小屋に着く。そこで露營し、平野長靖さんが死んだ三平峠を通り下山する。

妙 高 連 峰

田 中 正 裕

member 星野、岩田(友人)、田中

梅雨のあがった初夏、まだいったことのない妙高連峰への山行を行なった。焼山、火打岳、妙高と3ピークハントを目的とした。もうひとつの目的は来年の5月のスキーツア一候補地のひとつとして偵察を兼ねたのである。偵察の結果、焼山と火打岳間の稜線のキレット部はよく切れており、また火打と妙高間の天狗の庭に於いても予想していたよりもスキーで楽しめる感が少なく、候補地から外さざるをえなかった。文は前後いたしますが、南小谷で降りた我々はバスで小谷温泉に着く。林道からブナタテ尾根に入る。道はあるが人はあまり入っていないようである。天狗原に着くまで予想よりはるかに時間がかかった。天狗原山からは手前から焼山、火打山、妙高山と一目できる。焼山のすぐ下の泊岩で幕営する。焼山の煙がひじょうに気になる。S49年7月の爆発からちょうど2年目である。小谷温泉で聞いたら、「マアだいじょうぶでしょう」と言っていたが、目前にするとやはり気味悪い。翌朝、焼山は昨日より割れ目から多く煙を吐いているようである。水蒸気だとしたら朝だから冷えるからそう見えるのであろうか。しかし中腹からも少し出ており、今から登らなくてはいけないと思うと恐ろしいような気がする。泊岩を出発すると、すぐ道はなくなってしまふ。枯れ木が散乱しており、斜面は火山灰土と不安定な岩や石でひじょうに登りづらい。登りづめると旧噴火口と新噴火口のちょうど中央に出てしまった。いたる所で蒸気が噴出しており、やむを得ず10m程岩場を登り火口の縁に着き早々とキレットを通り、火打山に登りホッとす。火打

山ピークには焼山への入山禁止の札があったが、数は少ないが我々のように入山しているようである。ここからは人はぐっと増える。天狗の庭は数ヶ所湿地帯があり焼山での緊張をいやしてくれる。妙高を越えて関燕温泉に浸かり帰神する。

白 山

幸 内 義 孝

7月30日～8月2日

大阪—美農白鳥—(バス)—上在所 白山下—金沢大阪

上在所には白山神社があり、大きな杉で囲まれ又川も流れ、一風変わった大変静かな神社であった。ちょっと心残りだが、神社を後に、どこにも見当たらない白山めざして出発だ。石徹白川に沿って約1時間30分で登山道に入る。今迄水は豊富にあったが、これから避難小屋迄水はない。きつい登りである。5分程で石徹白大杉につく。樹令2千年で、やっとのことで生きている感じであった。背丈より高いささ、その上無風で暑くてたまらない。水をガブガブ飲み水筒が淋しくなるが大変多くのトンボ達が僕の歩を進めてくれる。御洗池迄行けてホッとする。うすぐらい中でテントをはり水を飲み明日の天気を夢見ながら眠った。

次の日、晴。6時出発、別山室戸大汝山と立山へ来たような感がある。所々に池があり顔を洗ったり水を飲んだりで大変楽しい。ちょっとの間、コルの池で大汝山と剣山をみつめると女性の胸を見ているようで感でよかった。もう帰ろうと思ひ下りにかかる。ひとつも下らずタンタンとした道が半かけあして5時間で新岩間温泉につく。風呂に入って外でひとりさびしく小屋でねた。

みちのくの山といで湯の旅

星 野 辰 也

仕事の都合等により1ヶ年ほど会の活動に参加出来ず、又夏季休暇がどの程度取れるのが8月迄不明だった為、今年はもし休暇が取れたらどこか遠くへ一人旅を試みようと考え東北へ行ってみることにしました。

日 程

8 / 7 大阪発(20:15)

8 / 8 (晴) 酒田……銚立(10:10)——鳥海山(14:10)——碓川(16:25)
……矢島……弘前

- 8 / 9 (晴、雲)弘前……岩木山スカイライン(10:10)——岩木山(11:15)——
岩木山スカイライン(12:00)……弘前……青森……猿倉温泉
- 8 / 10 (雲、雨)猿倉温泉……酸ヶ湯(11:15)——仙人岱ヒュッテ(12:45)
- 8 / 11 (雨、晴)ヒュッテ(8:00)——八甲田山(8:30)——ヒュッテ(10:00)
——酸ヶ湯(11:00)……十和田湖……八幡平大沼
- 8 / 12 (晴)大沼……八幡平(10:00)——大深山荘(12:45)——三ツ石山荘
(15:00)
- 8 / 13 (晴、雲)三ツ石山荘(5:45)——犬倉山(6:50)——不動小屋(10:00)
——岩手山(11:00)——網張温泉(14:40)……小岩井農場……盛岡……田
沢湖……乳頭温泉黒湯
- 8 / 14 (雲)黒湯……駒ヶ岳八合目(11:10)——秋田駒ヶ岳(13:30)——八合目
……田沢湖……繋温泉
- 8 / 15 繋温泉……盛岡……神戸

上記のとおり東北部の六山に登りましたが飯豊・朝日はともかく、東北の山々はその一つ一つが個性を持っているにもかかわらず、山自体が小さく近年観光開発が進んだ為、山頂まで非常に簡単かつ短時間で登れ、お年寄が御参登山をするのにちょうどよいという感じです。やはりこれらの山々が真価を発揮するのはスキーツアーの時期と思います。八甲田・八幡平の山なみはここに4mの積雪が存在した場合どんなにすばらしいものであるかは想像するに難くありません。又東北の無人小屋(無料)はスキーツアー用に造られており非常に快適でまたきれいです。東北の山行を考える場合これを十分に利用すべきだと思います。

東北は広く知られているようにいで湯が非常に多く登山の出発点、下山点には必ずよいといってよいほど温泉があります。乳頭温泉黒湯ではわらぶきの湯治小屋と露天風呂、あちこちに立ちのぼる湯煙り等、東北のいで湯の味を十分味わえました。又東北のこの豊富な地熱を利用しサンシャイン計画に供なう地熱発電所の建設があちこちで進み現代技術の粋を集めた発電所と昔ながらの湯治場が共存する新しい東北のいで湯の姿が生まれつつあります。それを見守る東北の秀峰達はいつまでも美しい姿を留めていてくれるでしょう。

今度、機会があったら次の山へ行きたいと思っています。

- (1) 朝日・飯豊連峰
- (2) 月山・八甲田スキーツアー

10月例会小遠征

御 岳 山

神 田 章 孝

S 10 / 9 ~ 10 / 10

メンバー L星加 野上① 野上② 野上③ 宮本 幸内 星野 田中 神田

10 / 9 10時20分発ちくま3号にて大阪をたつ。しかし連休前のため非常な混雑となり
全員あまりねれず。

10 / 10 はれ、のちガス、風雨のちくもり

4 : 30 木曾福島着

4 : 40 ~ 5 : 40 ・ 55 タクシーにて田ノ原

6 : 15 田ノ原 10 : 30

6 : 40 11 : 10 摩利支天分枝

6 : 50 11 : 30

7 : 10 8合目を越したあたり 11 : 50 五ノ池小屋を越えて下山途中

7 : 20 11 : 55

7 : 40 9合目 12 : 25 8合目をすぎた避難小屋

7 : 55 12 : 50

8 : 20 滝王神社 13 : 20 つり橋

8 : 30 13 : 40

8 : 55 剣ヶ峰ピーク 13 : 50 濁川温泉

9 : 15

9 : 40 二ノ池 <実働4 : 30>

4時30分、木曾福島駅着。2台のタクシーに分乗して田ノ原まで。ここで朝メシ。非常に冷える。

眼前には、陽光に照らし出された御岳山がそびえる。7合目、8合目とすぎるが、昨夜のすいみん不足がこたえて足が重い。風はひっきりなしにふくが快晴。しだいに樹林からハイマツにかわる。

下界は雲の下に沈み、中央アルプスだけがその山稜を雲の上につき出している。石がコツコツとした道で、ところどころ横にロープがはってある。滝王神社に着くが風強く非常にさむい。

ここより剣ヶ峰ピークまでは、雪がまだらに残っている。ピークより手前の小屋にもどり二ノ池に向う。しだいにガスがかり風強くなる。視界30m。二ノ池の小屋にて昼メシ。

ここよりサイノ河原を経て摩利支天分枝、雪10cmほどつもり、よくすべる。ガスが風雨にかわる。顔、少々こわばる。分枝より雪の少々ついた岩の道をジクザグに下り、五ノ池小屋に至る。ここにて当初サイトの予定であったが、天気が悪いため下山することとする。

下るにしたがい風雨は弱まりガスに変わる。雨もやむ。道は歩きやすいようにか丸木が横にわたしである。しかし雨でぬれて、ぬるぬるして歩みにくく気を使う。8合目、7合目をすぎ、つり橋に出、しばらく休んでから濁河温泉手前まで下る。

時間のつごうで、きょう帰ることとする。よって持っていた食料を、ほとんど平らげ、バスにて小坂駅にいたり名古屋に出、そこから新幹線にて帰神。

秋の御岳山（3063m）

星野辰也

S51年10月10日

パーティー 星加、野上① 野上② 野上③ 宮本 幸内 田中 神田 星野

10月10日 木曾福島（4：15）→田ノ原（6：15）→王滝頂上（8：30）→剣ヶ峰（9：15）→二ノ池（10：30）→飛弾頂上（11：35）→濁河温泉（15：50）→飛弾小坂（17：50）

御岳山には前々から一度は登ってみたいと思っていたがなかなか機会がなくて登れませんでした。御岳のその姿は中ア、八ヶ岳等の山行で目にするようにドッシリとして、まるで女性のお尻のようである。“山高き故に専からず”と云うがやはり標高3063mは貴重な存在であると思う。古くから信仰登山によって白衣装束の信者（おじいちゃん、おばあちゃん）に登られているだけあって登山路はよく整備されて、しかも田ノ原まで車で入れる為、非常に楽であった。10月10日木曾福島よりタクシーにて田ノ原へ着く。朝日に映える御岳を見つつ他人の弁当をもらう。とても美味しい！指呼の間にある王滝頂上を目指して歩み始める。山の朝の空気は想像するところ彼女と飲む夜明けのコーヒーの次に美味しいのではないかと。王滝頂上附近より積雪を見る。剣ヶ峰あたりで空模様があやしくなりだした。本日は山頂で一泊して、摩利支天あたりを散歩しようと思っていたのに残念である。仕方なしに視界の悪いなかを二ノ池～飛弾頂上へと進む。天候はさっぱりよくなるので時間も早いことだし濁河温泉へと下山する。雪がやがてハク松に変わりそしてモミ、桧木と変わり紅葉も美しくなってきたと思ったら濁河温泉に着いてしまった。時刻表を調べてよく見ると本

日中に神戸へ帰れそうなのでさっそく食料を処分すべく宴を開く。飛弾小坂へのバスはあまり気分のよいものではありませんでした。

今回の山行の教訓「山でガールハントをしようと思う時は、ガックの上にシュラフをくくりつけてさもベテランそうに草木の名前、遠くの山々の名前をかたっぱしからいい、そして又文学青年と思わせる為できるだけたくさんの本の名前を覚える」。それに加えて母性本能をくすぐれば申し分なしである。解るかなあ！

会 員 動 静

おめでた

野 上 哲 男さん 長男「修一」君誕生5月1日生

装 備 係 から

会の装備をお持ちの方は至急に返還下さい。

編 集 後 記

今年も1ヶ^年年_年余りとなりました。会員の皆さん今年を振り返られますと多くさんの山旅が思い浮べられることでしょう。秋も深まり六甲山の紅葉も一段と色彩やかになってきました。今年の富士山の初冠雪も例年より早いとのこと……これからの季節は雪によって山が一層変化に満ちてきます。

冬山を前にトレーニングに汗を流しておられることでしょう。北アルプスでは真白に化粧した雄大な峰々が我々の訪れを今は遅しと待ちわびていることでしょう。

素晴しかった山行、苦しかった山行、悲しかった山行といろいろな山旅があります。また同じ山行でも音楽のようにその時の心理状態で微妙に変化します。その時々_々の山行を文字に表わしていくにしたがってその山行の情景が新たに脳裏に彫まれることでしょう。また山行の記念として原稿をお待ちしております。

編集 原 長島 田中

植

原稿提出先

〒661 尼崎市武庫元町3-9-11

田 中 正 裕